

広島市安芸区矢野公民館所蔵資料の整理・調査を通じた 地域貢献と博物館学の実践

On Practice of Regional Contribution Activities and Museology by Sorting out and Investigating Archaeological Relics of Yano Public Hall in Aki Ward, Hiroshima Prefecture

安 間 拓 巳
AMMA Takumi

言語文化学科日本語文化コースで取り組んでいる、広島市安芸区矢野公民館所蔵資料の整理と調査を通じて行っている地域貢献活動と博物館学の実践活動について報告する。

はじめに

埋蔵文化財に対する法制度や調査体制が整備された現在では、発掘調査等によって得られた考古資料は調査を実施した機関や自治体において管理・保管されることが原則となっている。一方で県内の公民館や学校施設には、おもに地域から出土したとされる考古資料が保管されている例が少なくない。これらは埋蔵文化財の調査・保護体制が必ずしも十分に機能していなかった1970年代以前、あるいは埋蔵文化財の保護制度が現在とは異なる戦前・戦中に出土・採集された資料が中心となっている。

ところで、こうした資料は地域の歴史を語る重要な資料であるにもかかわらず、未公表あるいは不十分な資料紹介しかされていないものが多い。このような、いわば埋もれた資料を掘り起こして資料化し公表することは地域の歴史・文化を復元するための情報を提供することとなり、歴史・文化分野をもつ本学言語文化学科日本語文化コースが行う地域貢献の一つの形であると考えている。

こうした考えのもと、日本語文化コース地域文化史研究室（考古学）では現在広島市安芸区矢野に所在する矢野公民館が所蔵する考古資料の整理・調査を実施し、それにもとづいた公民館ロビーにおける資料展示の準備を進めている。その取り組みの概要について報告したいと思う。

資料の概要とこれまでの公表状況

広島市安芸区矢野地区は広島市の東南部に位置している。北部は広島湾に面し、周囲は海田町・瀬野町・熊野町・坂町・呉市などと接している。

公民館に所蔵されている考古資料の大半は、旧矢野町が広島市に編入される昭和50（1975）年までに矢野地区内各所で出土・採集されたものと思われる。所蔵資料数はかなり多く、破片資料を個別に数えていけば約300点にもなる（文末の一覧表参照）。広島市編入後に矢野地区で実施された正式な発

掘調査が岡谷遺跡・狐が城古墳（阿部編1985）などに限られることから、矢野地区の歴史を知るためには欠かせない資料群となっている。

これまでに公民館所蔵資料についてまとまった記述がある文献としては『広島縣矢野町史 上巻』（矢野町史編纂委員会編1958、以下『町史』）と『目で見える矢野町史 古代編』（小林1985、以下『目で見える矢野』）がある。『町史』は矢野町の歴史を通史で記述したもので、その中の「矢野の曙」「古代の矢野」などの章の中で矢野地区出土の考古資料を図や写真等を交えながら紹介し、矢野地区の歴史を記述している。『目で見える矢野』は公民館所蔵資料や遺跡の調査時の様子などを、写真を使って紹介したものである。これら以外にも『新修広島市史 第一巻 総説編』（広島市役所編1961）・『広島県史 考古編』（広島県編1979）・『広島県の考古学』（松崎1981）などで矢野地区の遺跡に関する記述があるが、基本的に『町史』を参考に記述されており、『町史』と『目で見える矢野』が公民館所蔵資料を知るための基本的な文献といえる。

ところがこの2冊には問題点がある。『町史』は公民館所蔵資料の歴史資料としての価値を示すものであるが発行年が古く、記述内容や掲載された図面が現在の研究水準と比較して不十分であることは否めない⁽¹⁾。また所蔵資料のすべてが紹介されているわけではないことも問題点といえる。『目で見える矢野』は所蔵資料の写真集という体裁で編集されている。これは地域の人たち、とくに子どもたちにも矢野地区の歴史を理解できるような内容にしたいという意図のもとに制作されたためである。この考え方自体は非常に優れたものであり、所蔵資料の概要を一見して知ることができる重要な文献ではあるのだが、学術的な内容とはなっていないし、『町史』と同様所蔵資料のすべてが紹介されているわけではない。したがって、公民館には多くの資料が所蔵されているものの、未だその歴史的な意義も含めて全体像が把握・公表できていないのが現状なのである。

公民館所蔵資料の例

公民館には多くの資料が所蔵されているが、それらの中から主要な遺跡のいくつかについて概要を紹介してみたい。

縄文時代

矢野小学校校庭遺跡 『広島県史 考古編』では「矢野小学校遺跡」、『目で見える矢野』では「旧矢野小学校校庭遺跡」と呼ばれている。昭和8（1933）年に校庭の拡張工事が行われた際に出土した土器・石鏃・打製石斧が所蔵されている。土器はほとんどが後期のものであるが、早期の押型文土器（楕円押型文）も1点ある。押型文土器は広島市内では東区の牛田早稲田神社遺跡や佐伯区の利松住吉遺跡・円明寺遺跡などで出土例があるが例は少ない。後期の遺跡としては南区比治山貝塚などがある。いずれにしても、広島湾岸の縄文時代早期あるいは後期の状況を知る上で貴重な資料となっている。また時期・型式が不明な資料が1点あり、調査を継続している。

弥生時代

梶木貝塚 昭和15（1940）年に調査された。土器・石鏃・磨製石斧・磨製石包丁・動物骨が所蔵されている。土器は前期の甕で、広島市東区の中山貝塚と並んで広島湾東部における弥生時代の始まりを知る上で貴重な遺跡となっている。

西崎（さいざき）貝塚 「幸崎貝塚」と記述されることもある。昭和15（1940）年に開発のためほとんど調査をされずに消滅してしまったようである。多くの土器と磨製石斧・石鏃・石製紡錘車・骨角器などが所蔵されている。土器は後期後半のものが主体である。すでに消滅してしまい詳細が分からなくなっている遺跡の遺物が多く所蔵されていることは、遺跡の概要を知る上で貴重な資料となっている。

古墳時代

西尾古墳 昭和15(1940)年に調査された。東西20m・南北14m・高さ5mの円墳で、主体部は長さ2.5m・幅0.8mの竪穴式石室である。石室内からは鉄鏃・鉄刀・鉄鉾・短甲・馬具(轡)・陶製勾玉・ガラス製小玉・かぎ形金メッキ製品などが出土し、墳丘には埴輪が配置されていた。これらの遺物のほとんどが公民館で所蔵されている。丸古古墳・狐が城古墳とともに、古墳時代中期の広島湾東部の歴史を考える上で重要な遺跡である。

丸古古墳 「丸子古墳」と記述されることもある。明治20(1887)年に土取り作業に伴い偶然に発見されたようである。南北20m・東西16m・高さ7mの円墳で、竪穴式石室であったと推定されている。石室内から仿製の内行花文鏡・鉄刀・鉄剣・管玉が、墳丘からは埴輪が出土し、公民館に所蔵されている。西尾古墳・狐が城古墳とともに古墳時代中期の広島湾東部の歴史を考える上で重要な遺跡である。

千古古墳 明治末年に調査された。墳形は不明だが、主体部は長さ3.9m・奥壁幅1.5m・高さ1.7mの横穴式石室である。鉄刀・鉄鏃・鉄釘・ガラス小玉・耳環・須恵器・人骨などが出土し、ほとんどが公民館に所蔵されている。

千古古墳下横穴式石室および付近の石室跡 昭和15年に調査された。千古古墳の下手にあったとされる長さ2.9m・幅1.4mの横穴式石室で、鉄鏃・金属環(耳環か)・須恵器が出土している。また付近には別の横穴式石室があったようで刀装具(鏢)・水晶製勾玉などの玉類・須恵器などが出土している。これらの多くは公民館に所蔵されている。

旧矢野小学校・中学校校庭遺跡 『町史』『目で見える矢野』ともに写真だけが紹介されている。出土状況は不明だが、古墳時代中期と推定されるまとまった量の土師器が所蔵されている。集落遺跡があったものと推定される。広島市内で古墳時代の土師器がまとまって出土した例はほとんど無く、同時期の広島市域の歴史を考える上で重要な資料である。

資料の意義と問題点

公民館所蔵資料の意義は、何と言っても矢野地区の原始・古代の歴史を考える上で欠かせない資料群であるということである。資料が残された遺跡の中にはすでに消滅してしまった遺跡や、調査時の図面などが残されておらず状況が不明な遺跡が多い。そうした中で所蔵資料はそれらの遺跡の概要を物語る重要な資料となっている。仮にこれらの資料が残されていなければ、矢野地区の歴史は極めて不明瞭な状況になっていたものと考えられる。

例えば矢野地区には西尾古墳・丸古古墳・狐が城古墳という径20~30mの古墳時代中期の円墳が築かれており、いずれの古墳の資料も公民館に所蔵されている⁽²⁾。古墳時代中期の太田川河口域から東方では20m以上の古墳は規模の大きなものに分類され、広島市安佐南区池の内第2号古墳(桑原1991)や東区長尾古墳群(高下ほか2001)などが知られているが決して多くはない。それが矢野地区では矢野の市街地を挟んだ東西の丘陵上に継続して3基築かれるという状況があり、古墳時代中期の広島湾東岸地域における矢野地区の重要性というものが理解できる。こうした古墳の立地に加えて、公民館では埴輪(狐が城古墳・丸古古墳・西尾古墳)・青銅鏡(丸古古墳)・短甲・馬具(以上、西尾古墳)などが所蔵されており、これらの資料から各古墳の築造時期や歴史的重要性がより明確になっているのである。

また、これらの資料が地元の方々の身近に保管されていて容易に目にすることができることも意義の一つであろう。現在の調査・管理体制では、発掘調査によって出土した資料は調査を実施した機関等で保管されることが原則となっている。そうすると、地域の歴史資料を身近に見る機会はかなり限られてしまう。資料の保護・管理の面からみて仕方のないことではあるが、地元の歴史資料は地元で

見られるようにして欲しいという意見もあるであろう。公民館所蔵資料はその点で意義のあるものであり、管理・保管に留意しながら、地域の歴史を理解する資料として活用されていくことが望ましい。

一方で問題点もいくつか指摘できる。まず出土地が不明あるいは不明瞭なものが一定数含まれることである。考古資料の検討において資料の出土地が分からないということは、その資料の歴史的な意義を考えることができないということに等しい。「町内出土」として保管されている資料についても矢野地区のどこなのかが明確にならない限り、資料としての価値は著しく劣ってしまう。

出土地が不明瞭というのは矢野地区内の遺跡出土資料として所蔵されているものの、本当にそうなのかわからないものがあるということである。例えば梶木貝塚出土資料として磨製石庖丁が4点所蔵されているが、これらが本当に梶木貝塚で出土したものかはかなり疑問ではないかと現段階では考えている。詳細は別稿に譲るが、仮にこれらの資料が梶木貝塚出土資料ではないということになると、梶木貝塚の歴史的な意義づけも変更される可能性が大きい。慎重に調査を進めたいと考えている。また所蔵資料が公民館で所蔵されるようになった経緯を記した記録等が保管されていないかについても調査を進めていきたい。

問題点の二つ目は、出土遺跡が誤ったまま整理・保管されているものがあると考えられることである。例えば『町史』では西尾古墳からは土器類の出土は記述されていないが、公民館には西尾古墳出土資料として須恵器が所蔵・展示されている。円筒埴輪や短甲などから想定される古墳の築造時期と須恵器の年代には明らかに齟齬があり、これらの須恵器が西尾古墳出土資料である可能性はかなり低いのではないかと考えている。また千古古墳下横穴式石室出土資料として多くの須恵器が所蔵されているが、その中に他の須恵器とは明らかに時期の異なるものが混在している。このようなことから、資料の整理を進めながら資料の出土地所についても検討を進めていきたいと考えている。

問題点の三つ目は、『町史』などでは紹介されているものの現在は所在が分からない資料が複数あることである。矢野公民館は現地に置かれるまで過去に2～3回の移転を経験しているようで、その引越し作業の際に紛失してしまった可能性がある。所在不明資料の中には金メッキのある金属製品（西尾古墳）や八窓をもつ刀の鏝（千古古墳下横穴式石室付近の石室跡）など、遺跡の意義を考える上で重要な資料が含まれている。整理を進めていく中でこれらの資料を発見できればと考えている。

問題点の四つ目は、資料の保管状態がよくないことである。ロビーで展示されている資料以外は段ボール箱や菓子箱などに入れられている状態である。このような状態での保管は資料の紛失を招きやすい。整理作業を進める中で収納ケースでの保管へ順次切り替えていきたいと考えている。

資料の保管状態でいえば、鉄製品の状態の悪さは深刻である。現在の発掘調査では鉄製品は図化等の作業を行った後速やかに保存処理を行い、資料の劣化を防ぐ処置をとる。しかし公民館所蔵資料はこうした処理が行われておらず、日々劣化が進んでいる。公民館の担当者もこの点には胸を痛めておられるが、保存処理を依頼するには経済的な措置が必要であり、すぐには手の施しようがないようである。われわれとしても、できるだけ現状で図面作成などの資料化を行い記録だけは残しておくようにしたいと考えている。

資料の整理と展示を通じた博物館学の実践

筆者と矢野公民館とのかかわりは、2008年頃に公民館所蔵の古式須恵器の資料調査をさせていただいたことから始まる。その後、矢野地区出身の学生が卒業論文のテーマに公民館所蔵資料を選ぶなど断続的な関係が続いてきた。その間、公民館所蔵資料の資料化と公表を進める必要性を感じてきたのだが、諸事情からなかなか着手できずにいた。そのような折、昨年度に公民館職員の水本公二氏より所蔵資料の整理と検討および公民館ロビーの展示の整備を依頼できないかとお声がけいただいた。池

本氏は公民館所蔵資料の重要性に気づかれていたのだが、それが地域の方々に伝えきれていないことを残念に感じておられたのである。そこで、これを絶好の機会と捉えてご依頼を受けることとし、本格的な資料整理と検討を開始したのである。その際、資料の整理やロビーでの展示構成を本学の学芸員課程で学ぶ学生たちの実践の場として活用させていただきたいと申し出たところ快諾していただいた。学芸員課程では学内で所定の専門科目および関連科目を学び、3年生後期に見学実習、4年生に学内での実務実習と博物館での館務実習を行うことになっている。とくに博物館で行われる館務実習が実践的な実務実習となるのであるが、実習期間等の問題もあり、必ずしも十分な実務を体験できる訳ではない。そうしたことから、公民館所蔵資料の整理や展示構成の計画・実施が学芸員課程における貴重な実務経験になると考えたのである。

資料整理に取り掛かる時期と新型コロナの感染が拡大する時期とが重なったこともあり、学芸員課程を受講する学生全員ではなく呼びかけに応答した学生たちとともに活動を開始した。活動は「矢野プロジェクト」と呼んでおり、8名の学生が参加している。現在は週末の時間の取れる時に公民館へ赴き、所蔵資料の目録作りを進めているところである。作業はまだ途中であるが、現段階での気づきとしては所蔵されている資料の数がかなり多いこと、消滅してしまった遺跡の資料が含まれること、出土場所が不明な資料が一定数含まれること、参考文献に記載があるにもかかわらず所在不明となっている資料があることなどがある。資料のリストアップが終了した後にプロジェクト参加者全員による検討を踏まえ、より整理された所蔵資料目録にしていかなければならないと考えている。

目録作りと並行して各資料の洗浄（必要に応じて）・図化、整理・保管などを進めていくつもりであり、資料の図面（実測図）作成にはすでに取りかかっている。実測図の作成には考古学の専門的な知識や実測技術の習得が必要なため当面は筆者が行わざるを得ないが、それらを学びたいという学生が出てくれば指導し、共同で作業を行えるようにしたい。資料の保管状態については必ずしも良好とはいえないため⁽³⁾、公民館の職員とも保管場所などについて相談しながら、整理用ケースや標本箱などに移して適切に整理・保管できるようにしていきたい。

今後の大きな作業としては、公民館ロビーにおける資料展示の構成作業がある。公民館ロビーには展示ケースが3台あるが、それほど大きなものではない。それに対して所蔵資料は多く、時代や種類もバラエティーに富んでいる。これらを十分に活用し、公民館を利用する地域の方々に地元の歴史を学んでいただける展示にしていかなければならない。一方、資料がバラエティーに富んでいる分いくつもの展示テーマを設定できる可能性がある。定期的に展示替えを行うことで資料の活用を図るとともに、テーマの設定・設定したテーマに即した資料の選択と展示・パネルやキャプション（説明版）等の作成・パンフレット等の作成など、継続した博物館学の実践の場としていければと思っている。

これまでの目録の作成を通じて、どのような遺跡の資料が所蔵されているのかが明らかになりつつある。そこで文献史料なども参考にして、各遺跡の概要を把握するため勉強会を始めている。これは博物館学だけでなく、地域の歴史・文化を考える機会ともなっている。授業期間では授業の合間に準備や勉強会を行うため、学生の負担を考えるとあまり頻繁に行うわけにはいかず、進度が遅いことは否めない。それでも少しずつ矢野地区の遺跡の概要や歴史的な意義を理解していくことで、展示の計画を練る準備としていきたい。今年度末までに一度は展示を計画・実施することが目標である。

プロジェクトの当面の課題としては、学生たちはやる気はあるのだが、まだ自分たちから自主的・積極的に活動するという状況にはなっていないように見えることが挙げられる。授業やサークル活動等を優先してもらわないといけませんが、プロジェクトを引き受けた以上は責任が生じるのも事実である。その辺りを再度認識させ、学生たちの自主性や積極性を引き出す工夫を考えなければと思っている。

おわりに

矢野公民館所蔵資料は矢野地区のみならず広島県の歴史を知るための重要な資料群である。にもかかわらず、全容が公表されていないために学術的な意義が十分に理解されているとは言い難い。こうした資料の整理・検討を行ってその成果を公表していくことは、大学による地域貢献の一つとして位置づけられよう。最終的には資料目録・資料の図面と写真・資料の歴史的意義などをまとめた冊子を作成し、公民館にお渡ししたいと考えている。資料数が多く調査内容が多岐にわたるため少し時間はかかるかもしれないが、しっかりと責任を果たしていきたい。

また、資料目録の作成や展示の構成作業は学芸員課程で学ぶ学生にとってまたとない実践の場となっている。このような機会を与えていただいた矢野公民館には心より感謝の意を表したい。博物館学の学びの成果を十分に発揮し、地域の方々の学びに役立つ展示を考えていきたい。

註

- (1) 図面における資料の表現方法が現在と異なるのは仕方ない部分もあるが、資料の図を上下逆に掲載したものもあるなど、修正すべき点が多い。
- (2) 狐が城古墳は1984年に広島市により発掘調査が行われているが、それ以前の採集品が公民館で保管されている。
- (3) 展示ケースに入れられているもの以外は、ほとんどがポリ袋に入れられたり新聞紙に包まれたりした状態で段ボール箱や菓子箱などに無造作に入れられている。新聞紙に包まれただけのものもある。

文献

- 阿部 滋編 1985『岡谷遺跡・狐が城古墳発掘調査報告』広島市教育委員会
桑原隆博 1991「池の内2号古墳」『探訪・広島古墳』芸備友の会
高下洋一ほか 2001『長尾古墳群発掘調査報告』広島市教育委員会
小林浩治 1985『目で見える矢野町史 古代編』
広島県編 1979『広島県史 考古編』
広島市役所編 1961『新修広島市史 第一巻 総説編』
松崎寿和 1981『広島県の考古学』吉川弘文館
矢野町町史編纂委員会編 1958『広島縣矢野町史 上巻』

〈キーワード〉

地域貢献, 博物館学, 矢野公民館, 考古資料, 整理・調査

安間 拓巳 (現代文化学部言語文化学科日本語文化コース)

(2022.11.4 受理)

矢野公民館所蔵資料目録（暫定版）

1. 以下に掲載した所蔵資料目録は暫定版であり、今後作業が進めば内容が修正されることも大いにあり得る。そのような作業途中のものを掲載する必要はないのかもしれないが、公民館所蔵資料の概要を知ることができるところまでは整理できてきたので、現段階での理解ということで敢えて提示した。そして何より、この目録の基礎を学生たちが作成しているということを知っていただきたいかったのである。
2. 本目録は以下のものを基礎とし、安間が整理・統合したものである。
2016年度言語文化学科日本語文化コース卒業生 田邊 奏さんが卒業論文制作時に作成したリスト。
安間が公民館所蔵資料の図化を行いながら作成したリスト。
矢野プロジェクトメンバーが作成したリスト。
3. これまでのリストの作成には、いずれもの以下の学生が関わっている。
望月 琳・新井美紀・池田茉衣・藤村 萌・森重貴咲（言語文化学科日本語文化コース）
4. 前記の学生のほか、プロジェクトには以下の学生が参加している。
宇津内聖大・沖田里昂・深内春音（言語文化学科日本語文化コース）

番号	出土地	種類	時代	時期	材質	備考	
1	旧矢野小学校校庭遺跡	縄文土器	縄文	早期			
2		縄文土器	縄文	後期			
3		縄文土器	縄文	後期			
4		縄文土器	縄文	後期			
5		縄文土器	縄文	後期			
6		縄文土器	縄文	後期			
7		縄文土器	縄文	後期			
8		縄文土器	縄文	後期			
9		縄文土器	縄文	後期			
10		縄文土器	縄文	後期			
11		縄文土器	縄文	後期			
12		縄文土器	縄文	後期			
13			石鏃	縄文	後期（?）	安山岩	
14			打製石斧	縄文	後期（?）		
15	保木川の水中	打製石斧	縄文?	不詳		全体にやや摩滅。	
16	梶木貝塚	弥生土器（甕）	弥生	前期		口縁部破片	
17		弥生土器（甕）	弥生	前期		口縁部破片	
18		弥生土器（甕）	弥生	前期		口縁部破片	
19		弥生土器（甕）	弥生	前期		所在不明	
20		弥生土器（壺?）	弥生	前期?		胴部破片	
21		弥生土器（甕）?	弥生?	前期?		所在不明	
22			石鏃	弥生	前期（?）	黒曜石	
23			大型蛤刃石斧	弥生	前期（?）		
24			大型蛤刃石斧	弥生	前期（?）		所在不明
25			大型蛤刃石斧	弥生	前期（?）		所在不明
26			磨製石包丁	弥生	前期（?）	輝緑凝灰岩 （?）	
27			磨製石包丁	弥生	前期（?）		
28			磨製石包丁	弥生	前期（?）		
29		磨製石包丁	弥生	前期（?）			未製品

番号	出土地	種類	時代	時期	材質	備考
30	梶木貝塚	獣骨	弥生	前期 (?)		複数
31	高下谷遺跡	弥生土器 (台付壺)	弥生	中期		
32	絵下谷	銅劍	弥生	中期		基部再加工作品。5か所に穿孔。
33	西崎貝塚	弥生土器 (壺)	弥生	後期		口縁部
34		弥生土器 (壺)	弥生	後期		口縁部
35		弥生土器 (甕)	弥生	後期		口縁部破片
36		弥生土器 (甕)	弥生	後期		口縁部破片
37		弥生土器 (甕)	弥生	後期		口縁部破片
38		弥生土器 (甕)	弥生	後期		胴部
39		弥生土器 (甕)	弥生	後期		底部
40		弥生土器 (甕)	弥生	後期		底部
41		紡錘車	弥生	後期 (?)	蛇紋岩?	
42		石鏃	弥生	後期 (?)	安山岩	
43		太型蛤刃石斧	弥生	後期 (?)		
44		太型蛤刃石斧	弥生	後期 (?)		
45		磨製石斧	弥生	後期 (?)		
46		骨角器 (猪牙製ピン)	弥生	後期 (?)		
47		貝殻	弥生	後期 (?)		複数
48		弥生土器 (甕)	弥生	後期末~古墳初		口縁部
49		弥生土器 (鉢)	弥生	後期末~古墳初		口縁部~胴部
50		弥生土器	弥生	後期末~古墳初		胴部破片
51		弥生土器	弥生	後期末~古墳初		胴部破片
52		弥生土器	弥生	後期末~古墳初		胴部破片
53	弥生土器	弥生	後期末~古墳初		胴部破片	
54	弥生土器	弥生	後期末~古墳初		胴部破片	
55	西崎貝塚 (?)	須恵器 (平瓶)	古墳	後期		口縁部付近
56	西崎箱式石棺群3号石棺	銅釧	弥生 (?)			
57		銅釧	弥生 (?)			所在不明
58		石枕	弥生 (?)			赤色顔料付着
59	西崎南石棺	石棺片	弥生 (?)			
60	西尾古墳	須恵器 (提瓶)	古墳	後期		別の遺跡の出土資料か?
61		須恵器 (提瓶)	古墳	後期		別の遺跡の出土資料か?
62		円筒埴輪	古墳	中期		多数。点数未確定。
63		鉄鏃	古墳	中期		複数。型式・点数未確定。
64		短甲 (横矧板鋌留)	古墳	中期		破片多数
65		鉄刀	古墳	中期		
66		鉄刀	古墳	中期		
67		鉄鉾	古墳	中期		
68		鉄鉾	古墳	中期		
69		鉄鉾	古墳	中期		
70		馬具 (轡) ?	古墳	中期		轡とは断定できない。
71		馬具 (轡) ?	古墳	中期		轡とは断定できない。
72		馬具 (轡) ?	古墳	中期		轡とは断定できない。
73		かぎ形金具	古墳	中期		2点。所在不明
74	鏃?	古墳	中期			

番号	出土地	種類	時代	時期	材質	備考
75	西尾古墳	勾玉	古墳	中期	陶質?	
76		玉	古墳	中期	ガラス	2点
77	丸子古墳	内行花文鏡	古墳	中期		
78		鉄剣	古墳	中期		
79		鉄剣	古墳	中期		
80		鉄刀	古墳	中期		
81		鉄刀	古墳	中期		
82		鉄刀	古墳	中期		
83		土師器?	古墳	中期?		12点
84	狐が城古墳	円筒埴輪	古墳	中期		多数。点数未確定。
85	千古古墳	須恵器	古墳	後期		破片。所在不明
86		鉄鏃	古墳	後期		7点。所在不明
87		鉄刀	古墳	後期		断片
88		鉄釘	古墳	後期		20点。所在不明
89		銅環(耳環?)	古墳	後期		2点。所在不明
90		玉類	古墳	後期	ガラス	3点。15点所在不明
91		土玉	古墳	後期	土	
92	千古古墳下横穴式石室	須恵器(杯身)	古墳	後期		
93		須恵器(高杯)	古墳	後期		脚部
94		須恵器(高杯)	古墳	後期		
95		須恵器(高杯)	古墳	後期		
96		須恵器(台付埴)	古墳	後期		
97		須恵器(提瓶)	古墳	後期		
98		須恵器(提瓶)	古墳	後期		
99		須恵器(提瓶)	古墳	後期		
100		須恵器(提瓶)	古墳	後期		
101		須恵器(埴)	古墳	後期		
102		須恵器(甗)	古墳	中期		別の遺跡の出土資料か?
103		鉄鏃	古墳	後期		1点。2点所在不明
104		耳環	古墳	後期		
105		耳環	古墳	後期		
106	千古古墳下横穴式石室(?)	須恵器(杯身)	古墳	後期		
107	千古古墳下横穴式石室 付近の石室	刀装具(鏢)	古墳	後期		所在不明
108		勾玉	古墳	後期	水晶	
109		管玉	古墳	後期	緑色凝灰岩	
110		玉	古墳	後期	ガラス	
111		玉	古墳	後期	ガラス	
112		切子玉	古墳	後期	水晶	所在不明
113	小学校・中学校校庭遺跡	土師器(埴)	古墳	中期		
114		土師器(高杯)	古墳	中期		
115		土師器(高杯)	古墳	中期		
116		土師器(高杯)	古墳	中期		脚部
117		土師器(埴)	古墳	中期		
118		土師器(埴)	古墳	中期		

番号	出土地	種類	時代	時期	材質	備考	
119	小学校・中学校校庭遺跡	須恵器（高杯）	古墳	後期			
120		須恵器（高杯）	古墳	後期		脚部	
121		須恵器（長頸壺）	古代	8世紀		頸部	
122		須恵器（長頸壺）	古代	8世紀		頸部	
123		瓦質土器（甕）	中世	15～16世紀		亀山系	
124	宮脇古墳	須恵器（杯蓋）	古墳	後期			
125		須恵器（杯身）	古墳	後期			
126	神森古墳	鉄器（鉞?）	古墳?	不詳		3点。2点所在不明	
127	神森 舟形石棺中	鉄鍬	古墳?	不詳		4点。所在不明	
128		鉄器	古墳?	不詳		所在不明	
129		耳環	古墳?	不詳		所在不明	
130	寺屋敷跡	瓦（布目）	古代	奈良・平安			
131		瓦（布目）	古代	奈良・平安			
132	尾崎神社山麓	須恵器（椀）	古代?			口縁部～胴部	
133		土師質土器（小皿）	中世				
134		土師質土器（椀）	中世			底部	
135		土師質土器（椀）	中世			口縁部～胴部	
136	多家宮遺跡・尾崎山遺跡?	土錘	不詳				
137		土錘	不詳				
138		土錘	不詳				
139		土錘	不詳				
140		土錘	不詳				
141	多家宮遺跡	石錘	弥生?		花崗岩		
142	町内 北尾射の場付近	須恵器（広口壺）	古墳	後期		口縁部	
143	町内 多家宮付近畑	須恵器（平瓶）	古墳	後期		口縁部付近	
144	町内 泉	土師質土器（小皿）	中世				
145		土師質土器（小皿）	中世				
146		土師質土器（小皿）	中世				
147		土師質土器（小皿）	中世				
148		土師質土器（小皿）	中世				
149		土師質土器（小皿）	中世				
150		土師質土器（小皿）	中世				
151		古銭（開元通宝）	中世				所在不明
152		古銭（銭種不明）	中世				所在不明
153		古銭（聖宋元宝）	中世				所在不明
154		古銭（天聖元宝）	中世				3枚のうち2枚が所在不明
155		古銭（元豊通宝）	中世				3枚所在不明
156		古銭（皇宋通宝）	中世				所在不明
157		古銭（元祐通宝）	中世				
158	古銭（紹聖元宝）	中世				所在不明	
159	古銭（至道元宝）	中世				所在不明	
160	古銭（熈寧元宝）	中世					
161	古銭（祥符通宝）	中世					
162	古銭（永樂通宝）	中世				3枚のうち2枚が所在不明	
163	町内 矢野東	土師質土器（小皿）	中世～近世				

番号	出土地	種類	時代	時期	材質	備考	
164	町内 真光寺?	陶器(甕)	近世以降			口縁部片	
165	町内 矢野西小学校付近	石製品	不詳				
166	町内 矢野東4丁目	貝殻				5点	
167	町内出土	弥生土器(壺)	弥生	中期			
168		弥生土器(壺)	弥生	後期		口縁部	
169		弥生土器(甕)	弥生	後期		口縁部片	
170		弥生土器(甕)	弥生	後期		口縁部片	
171		弥生土器(甕)	弥生	後期		胴部片	
172		弥生土器(甕)	弥生	後期		胴部片	
173		弥生土器(甕)	弥生	後期		底部	
174		弥生土器(甕)	弥生	後期		底部	
175		弥生土器(蓋)	弥生	不詳			
176		土師器(高杯)	古墳	中期			杯部
177		土師器(高杯)	古墳	中期			脚部
178		土師器(高杯)	古墳	中期			脚部
179		土師器(高杯)	古墳	中期			脚部
180		土師器(高杯)	古墳	中期			杯部
181		土師器(高杯)	古墳	中期			杯部
182		土師器(椀)	古墳	中期			
183		須恵器(杯蓋)	古墳	中期			
184		須恵器(杯身)	古墳	後期			
185		須恵器(杯身)	古墳	後期			
186		須恵器(杯身)	古墳	後期			
187		須恵器(杯身)	古墳	後期			
188		須恵器(杯身)	古墳	後期			
189		須恵器(高杯)	古墳	後期			杯部
190		須恵器(甕)	古墳	後期			
191		須恵器(杯身)	古墳	後期			
192		須恵器(杯蓋)	古墳	後期			
193		須恵器	古墳	後期?			小片
194		須恵器	古墳	後期?			小片
195		石製品	不詳				時期・用途とも不明
196		不詳	石核	縄文(?)		安山岩	
197	弥生土器(壺)		弥生	後期		口縁部	
198	弥生式土器(後期)						
199	土師器(高杯)		古墳	中期		脚部	
200	須恵器(杯蓋)		古墳	後期			
201	須恵器(杯蓋)		古墳	後期			
202	須恵器(甕)		古墳	後期			
203	須恵器		古墳			複数	
204	埴輪		古墳			複数	
205	土師質土器(杯)		中世	15c後~16c初			
206	陶器		近世?			口縁部	
207	石製品		不詳			くぼみあり	
208	石製品	不詳			斧状品		

番号	出土地	種類	時代	時期	材質	備考
209	不詳	石製品	不詳			時期・用途とも不明
212		鉄刀片	古墳			
213		鈍?	古墳			
214		鈍?	古墳			
215		土器片	不詳			多数
216		鉄鏃	古墳			多数
217		鉄器片	古墳			多数
210	不詳 (貝塚)	土器片	不詳			多数
211		貝殻	不詳			多数